

1、青陽東養護学校小学部図工授業サポート参加のいきさつ

私が行っております青陽東養護学校は小中高一貫校です。

その小学部の図工授業サポートに、私は灘区会員と一緒に参加しております。

最初は、平成19年頃、グループわ本部へ養護学校から、ボランティアの依頼がありました。

本部としては、図工関係なら、カレッジ美工卒業生に声をかけてみようということになり、その結果兵庫区の方が行ってくださることになりました。

けれども1年半ぐらい経ったとき、もうやめたいと申し出られました。理由は家から遠いし、図工を教えるのではなく、後片付けが主な仕事なので、誰にでも出来る仕事なのです とのことでした。

2、灘区会員の声かけと仲間づくり

そこでちょうど灘区会員になっていた私は早速仲間に声かけを始めました。結果2~3人の方が手を挙げて下さって、とりあえず始めることにしました。

3、声かけで残念だったこと

とりあえず1回参加してみてくださいませんか？と声をかけたとき、

「なんや図工を教えるんと思ったら違うんやね、それやったらやめとくわ」

「なんか私、こんな子ら やっぱり苦手やわ・・・、なんか こわいねん・・・やっぱりやめとくわ」といわれたとき。

ウン！！でした。

皆さんは、どう思われますか？

4、ローテーション表の作成

さて参加者が増えると、ローテーション表を作って1回2~3人が都合の良い日に参加できるようになり、計画を立てやすくなりました。

しかし、何年も経つてくると、みんな年をとってきて、最近はやめる方も増えてきましたので、また、声かけをはじめなくちゃ と思っている今日この頃です。

5、授業サポート内容

図工授業は毎週木曜、低学年と高学年に分かれて、10時半から12時前まで行われます。

私たちは10時過ぎに教室に入って、はじまる前に図工教材チェックとセットの確認をします。

低学年が入ってくると、こんにちはと、お出迎え。先生は軽度の子どもには2人に1人、重度の子どもには、1人に1人の先生が寄り添って入って来られます。

たまに先生に頼まれて、1人の子どものそばにつくこともありますが、大抵は机の回りを見回りながら、さりげない気配りをします。

低学年が終わると、いれかわりに高学年がやってきますが、短い間に机の上の片づけと拭き掃除をし、図工材料をそろえます。特にポスターカラーを使うときは、顔中ぬりたくる子もいたり、口に入れられないよう、目をこすらないよう、気配りが大変です。

終わった後の汚れは大変なものです。道具を洗って、机の上、下、掃除をして帰るときはさすがに、ホ と疲れを感じる時もあります。

6、うれしいこと

けれども、そんな大変ななかうれしいこともあります。

例えば いつも無表情で無反応で1度も目を合わせようとしなかった車椅子の男の子がある日、駅の構内で出会ったら、あ と声をあげて、うれしそうに私を見てくれたこと。

また、教室の中で、ある男の子が私に抱きついてくるので、私も軽くハグをしたら、突然ペッとつばをはきかけてきて、じい と私をみました。先生はこの子の親愛のあらわしかたなんですよ、といわれ大笑い。そんななか何よりうれしいのは、子どもたちが大好きで可愛いねえといいながら、子どもたちを見守り、汚れ仕事をせつせと片付けて下さる仲間がいることです。それが今、私の一番の心の財産であり、うれしいことです。

7、助成金の申請

サポート活動参加者の交通費実費支給のため灘区ボランティア活動助成金の交付申請手続きをしました。

まず、グループわ灘区会員名簿により、区会長名で登録して、1年後から資格ができます。

2万円が限度の交付金ですが、グループわ灘区会員でありボランティアセンターの条件を充たせば、同じ区内の無償のボランティアも同時に申請できます。

詳細は、それぞれの区のボランティアセンターへ問い合わせてください。

以上